

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月21日更新

事務事業名	敬老事業	マニフェスト 関連	全庁横断 課題関連	集中改革 プラン関連
総合計画 体系	政策 施策の柱	2 福祉の健康 7 高齢者の自立と支援体制の充実 25 高齢者の社会参加の促進	所属部 健康福祉部 所属課 高齢者支援課 所属班 包括支援センター班	課長名 坂井 晴代 担当者名 中山 義崇 (内線) 1164
予算科目	会計 一般	款 3 項 1 目 4 事業連番 10436 根拠 法令	合志市敬老事業実施補助金交付要綱 合志市百歳の高齢者に対する敬老祝	
終了、開始年度	□ 5年度で終了 □ 5年度から開始		事業期間	□単年度のみ □期間限定複数年度 (開始年度 18 年度) ~ 年度)

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	多年にわたり社会の発展に寄与して来られた高齢者を敬愛するための敬老事業を実施する行政区・施設に対して、その経費の一部を補助する。また、百歳表彰及び金婚表彰についても当事業で行う。 〔経緯〕平成14年度、行政主催の敬老祝賀会(式典方式)から敬老事業を実施する行政区等への補助金交付方式に変更した。※高齢者(参加対象者)が増加したため、弁当等の手配等で混乱を来すようになった。平成19年度、補助金算定単位(人数加算)の対象年齢を70歳以上から75歳以上に上げた。※高齢者(対象者)が多くなったため。平成25年度、百歳敬老祝金贈呈事業及び金婚表彰事業を本事業へ統合。 〔補助金の算出〕(1)定額補助(1行政区あたり10,000円)と(2)人数加算(75歳以上の高齢者数に1人あたり700円を乗じた額)の合計額。※敬老事業に要した実支出額が少ない場合は、その額。行政区に該当しない施設等については人数加算のみ。
【業務の流れ】	【敬老事業】①住民登録から行政区毎の75歳以上人口を把握 ②区長・施設長に補助金交付申請書を送付 ③申請区に補助金交付決定通知書を送付 ④敬老事業実施後提出された実績報告書を審査 ⑤補助金の支払い 【金婚表彰事業】①当該年度の金婚夫婦該当者を把握するため、広報誌およびホームページで周知し、申込受付。②金婚夫婦表彰伝達式(例年9月)の案内送付、実施 ③伝達式欠席者へ表彰状受け渡し ④伝達式参加者へ記念品(集合写真)の送付 【百歳敬老祝金贈呈事業】①当該年度の百歳高齢者を調査・把握 ②誕生日に訪問し、お祝いメッセージ・祝金の贈呈
【主な予算費目】	報償費、需用費、負担金補助及び交付金(補助金)
【意見や要望】	敬老事業を実施しない行政区があり、特に高齢者数が10人未満の行政区は実施しない場合が多い。R2年度より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、敬老会として実施する区は少なく、記念品の配布を行う区が多かった。区長より「敬老会では元気な高齢者しか来れないが、記念品の配布だと全員にいきわたるので良い」などの意見があった。 金婚夫婦表彰に関して、申請方法をR3年度より従来の各戸回覧(区長取りまとめ)をやめ、個人ごとの申請とし、窓口・支所・郵送・メール・ファックス、電話でも受け付け可能とした。例年ある「回覧による申請を行ったが、新聞掲載が無かった」「(区長が)取りまとめによる提出を忘れていた」「組長のところにとまっていた」などトラブルはなかった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)	6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
・敬老事業を実施した75地区、4施設に補助金を交付し、敬老事業を支援した。	・敬老事業実施補助金の交付	
・金婚夫婦 80組を表彰した。	・金婚夫婦の表彰(熊日共催)	
・満百歳を迎えられる高齢者22人に祝金等を贈呈した。	・百歳祝金の贈呈(対象者24人。贈呈：祝い状、表彰状額、祝金10万円)	
・長寿を祝い労をねぎらうとともに、健康で長生きする意欲の高揚を図った。	・内閣総理大臣表彰(百歳)の伝達(対象者24人)	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由	
→ ア: 補助金交付申請団体数	件	敬老事業75歳以上の人口増による補助金の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
多年にわたり社会の発展に寄与して来られた高齢者	→ ア: 75歳以上的高齢者	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
長寿を祝いその労をねぎらうとともに、市民の敬老思想および高齢者の生活意欲の高揚を図る	→ ア: 敬老事業への参加者数	人
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
敬老会の実施・参加することで長寿を祝うことが出来るので、敬老事業への参加者数とした。		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア 件		81	82	84	79	84	84	84	84	
② 対象指標	ア 人		7,250	7,480	7,535	7,825	7,906	8,304	8,597	8,853	
③ 成果指標	ア 人		7,904	8,224	5,274	6,192	6,200	6,300	6,400	6,500	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	8,852	8,951	10,196	8,640	10,473	10,902	11,252	11,602
	(A) 事業費計	千円	8,852	8,951	10,196	8,640	10,473	10,902	11,252	11,602	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	28	28	28
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	28	28	28
	人件 費	正規職員従事人数	人	5	6	6	6	6	6	6	6
		延べ業務時間	時間	520	770	360	874	360	360	360	360
		(B)人件費計	千円	2,033	2,930	1,434	3,183	1,434	1,434	1,434	1,434
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,885	11,881	11,630	11,823	11,907	12,336	12,686	13,036	

事務事業名	敬老事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 高齢化により参加対象高齢者数が増加するため、参加者数も増加すると思われる。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 75歳以上の高齢者数は増加しているが、全員が敬老事業へ参加できるものではないため参加者数が大きく伸びる見込みはない。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 人数加算における75歳以上の高齢者数は今後も増加すると考えられる。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 補助金交付事務に係る必要最少の業務時間数である
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 老人福祉法第13条第2項（老人福祉の増進のための事業）において、「地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の進行を図るとともに、当該事業を行うものに対して、適当な援助をするように努めなければならない」と位置づけられている。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 上記の法に基づき、高齢者に敬意を表す事業への補助金交付事務は、市が行なわなければならない事務である。

3 評価結果の総括（CHECK）

高齢者にとって、お住まいの地域で祝福を受けることで、生きがいを感じ、健康長寿の意識向上が図られた。また、地域住民の高齢者に対する敬老意識の向上も図られ、地域の活性化にもつながっている。
敬老事業の地域における実施体制も定着しており、現行での維持が望ましいと考える。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 高齢者数は増加しているものの、敬老事業へ参加困難な人もいるため、参加者数の実績は昨年度より下がった。																												